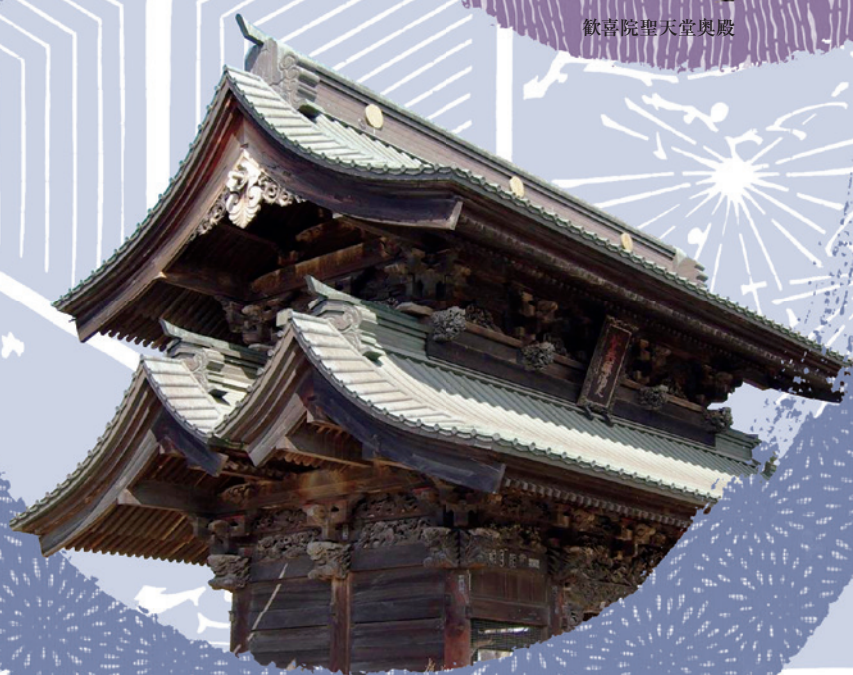


熊谷市の歴史的建造物

― 熊谷の歴史・文化を語り継ぐ建造物群 ―



欽喜院聖天堂奥殿



貴徳門

有形文化財と建造物

1950(昭和25)年制定の文化財保護法において「文化財」は我が国の歴史、文化の正しい理解のために欠くことのできな貴重な国民財産と定義されている。このうち、建造物、工芸品、彫刻、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料などの有形の文化的所産で、我が国にとって歴史上、芸術上、学術上価値の高いものを「有形文化財」と総称している。

文化財の指定では、国が指定する国宝・重要文化財と国が登録する登録有形文化財(建造物)をはじめ、都道府県ならびに市町村が指定する有形文化財がある。この有形文化財に含まれる建造物は熊谷市の各地に所在し、郷土の歴史と文化を語り継ぐ市民共有の貴重な遺産となっている。



熊谷市の 歴史的建造物

1 かんぎいんしょうでんどう 歓喜院聖天堂 熊谷市妻沼1511

国宝・国重要文化財

歓喜院聖天堂は、1735(享保20)年から1760(宝暦10)年にかけて、林兵庫正清及び正信を棟梁とした大工集団により建立された。日光東照宮の創建から百年余りの装飾建築が成熟期となった時代、棟梁の統率の下、日光東照宮の修復にも参加した職人達によって、優れた技術が惜しみなく注ぎ込まれた聖天堂は、「江戸時代建築の分水嶺」とも評価され、江戸後期装飾建築の代表例に挙げられる。彫刻は上州花輪村(現・群馬県みどり市)の石原吟八郎が率いる彫物師たちが担当した。

これまで知られていた彫刻技術の高さに加え、修理の過程で明らかになった漆の使い分けなどの高度な技術が駆使された近世装飾建築の頂点をなす建物であること、またそのような建物の建設が民衆の力によって成し遂げられた点が、文化史上高い価値を有すると評価され、国宝に指定された。

2012(平成24)年7月9日指定



「歓喜院聖天堂」正面



「歓喜院聖天堂」の中殿から奥殿を望む

2 きそうもん 貴惣門 熊谷市妻沼1511

国重要文化財

貴惣門は、1851(嘉永4)年に竣工した妻沼聖天山の山門で、三間一戸八脚門、二重切妻造、瓦葺銅板葺、桁行9.2m、梁行5.2m、棟高13.3mである。2階は床組がなく屋根のみを二重とした重層門である。初重妻側は左右対称の屋根形式として、それぞれ独立した破風を付ける。それらを傘下に納めるように上層の破風が掲げられ、妻側に3つの破風飾りが付く、奇抜で意匠的な形式が特徴的な門である。

設計者は、1742(寛保2)年の江戸大洪水(荒川、利根川)の災害復旧の御手伝普請でこの地に派遣された、周防吉川藩(現・山口県岩国市)の長谷川十右衛門良治である。当時はこれを建設する余力はなく、百年余りを経て、棟梁の林正道がより規模を大きくして竣工した。彫刻は上州花輪村(現・群馬県みどり市)の石原常八主利が担当した。柱頭廻りを賑やかに飾る彫刻群は素木のケヤキ材で、彩色に代わって細やかな彫刻が施されている。

聖天堂建立以降、幕末期に至るまで、立体化・細密化が進んだ彫刻技法の特徴を見せている。それぞれの彫刻には寄進者銘が刻まれており、聖天堂と同様、庶民信仰の形態を象徴している。

2002(平成14)年5月23日指定



3 ひらやまけいじゅうたく 平山家住宅 熊谷市樋春1067

国重要文化財

平山家住宅は、江戸時代中期、旧樋口村の名主役を務めた平山家七代目の勘右衛門(1670-1708年)の頃に農業住宅として建築されたと推定される。現存する文化財の民家住宅としては県内最大規模を誇り、現在も屋敷周りに堀や土塁が残されている。主屋の外観は入母屋造、重厚な茅葺屋根が特徴で東西方向の幅は約17m、南北方向の幅は約12mの規模を誇る。建物、桁行19.3m、梁行10.9mの規模で、西・南面は大屋根下方に庇屋根を造り出し、強固な木組みの構造が下支えている。豪壮な造りの間取りで「三間取大型広間型」に分類され、吹抜けの天井となる40畳の広さの土間にはカマドやウマヤが設けられている。全体的に庇が低く東側では人間の背丈ほどである。破風には、家紋を配した化粧板が置かれている。1975(昭和50)年9月から1977(昭和52)年3月にかけて復元保存のための解体修理が行われた。

1971(昭和46)年6月22日指定



4 りゅうせんじかんのんどう 龍泉寺観音堂 熊谷市善ヶ島187

埼玉県指定文化財

妻沼地域善ヶ島の龍泉寺は室町時代の終わり、僧長海によって開山されたと伝えられている。龍泉寺の観音堂は、円柱造、床下は八角柱となっており、三間四方面の銅板で被覆された屋根を形作っている(昭和44年までは茅葺)。柱間は中の間を広く取り、室町時代の特徴を表している。また、和様と唐様式の2種類の様式を巧みに織り交ぜて、当時の端正な趣を保っている代表的な建造物のひとつに数えられている。軒廻りや、周囲の浜緑、本堂の中央に置かれた須弥壇などは、一部が修復されて現在に至っている。

1959(昭和34)年3月20日指定



5 かみのむらじんじやほんでん らいでんじんじやほんでん 上之村神社本殿・雷電神社本殿 熊谷市上之16

埼玉県指定文化財

上之村神社の創建年代は不詳であるが、応永年間(1394~1427年)に成田時が社殿を再建、当地を治めていた成田氏の厚い崇敬を受けていたと伝わる。古くは、久伊豆神社と称した。当地周辺の旧上之村・旧箱田村・旧池上村三村の鎮守社であり、1604(慶長9)年に徳川家康から社領三十石の御朱印状を拝領した。明治時代に、御嶽神社・伊奈利神社・浅間神社・諏訪神社・天神社・荒神社・住吉神社、夷神社などの計10社を合祀した。

上之村神社本殿は、建築の技法や装飾彫刻の特徴から、17世紀初期頃の建立と推定されている。一間の幅(約1.8m)の壁面で屋根を支える一間社流造の構造で、旧来の茅葺から銅板葺に改装された。桃山時代の面影を残し、屋根の優美で流れるような曲線が最大の特徴で全体の風格を一層高めている。緻密で落ち着きのある彫刻が各所に配置され、側面上部の「墓殿」と呼ばれる装飾には十二支が表現されている。

雷電神社は上之村神社の摂社で、現在は、「大雷神社」とも呼ばれている。雷電神社本殿は間口、奥行とも70cm程の規模であるが、上之村神社本殿と同じ一間社流造、屋根は銅板葺である。かつての雷電神社本殿の扉は、銘文から1558(永禄元)年に成田長泰が寄進したことが記されている。

1966(昭和41)年3月8日指定



「上之村神社本殿」



「雷電神社本殿」

6 すわじんじやほんでん 諏訪神社本殿 熊谷市上新田227

埼玉県指定文化財

諏訪神社本殿は、当地の柴田信右衛門豊忠によって1746(延享3)年に建立されたと伝えられ、その後、1852(嘉永5)年に補修された。創建時の棟札によると、「歓喜院聖天堂」の造営に深く関わった三ヶ尻村(現・熊谷市三ヶ尻)出身の内田清八郎が主棟梁となり、上州花輪村(現・群馬県みどり市)出身の石原吟八郎及び門弟が彫刻を担当した。また、林兵庫正清が細工の意匠に関わるほか、彩色は聖天堂と同じ狩野派の絵師が施し、高い技術力を発揮した。同時期に建立を進めていた妻沼聖天山「歓喜院聖天堂」の工事中断の間にこの本殿が手掛けられたものと推定される。檜皮葺の屋根は信州松本城下の太田松右衛門などの技術に委ねられ、名工集団によって本殿の建立がなされたことが分かる。

本殿の構造は、桁行1.47m、梁行2.27mの檼造による一間社流造で、屋根の下には三角の形をした千鳥破風、軒の下には上部が丸く形作られる唐破風を付け、正面には屋根が張り出した向拝を設けている。現在、彩色の多くが薄れているが、各所に施された人物や動物の装飾彫刻から放たれる雰囲気や際立ち、実際の規模以上の風格を感じることができる。

2016(平成28)年3月15日指定



7 もんじゅじにおうもん 文殊寺仁王門 熊谷市野原623

熊谷市指定文化財

文殊寺は、古くは能満寺という古刹であり、室町時代の1481(文明13)年に焼失したが、その2年後に高見城(現小川町所在)の城主であった増田四郎重富が再建した。その際に知恵をつかさどる文殊菩薩を祀り、文殊寺と称したことに始まる。

文殊寺仁王門は参道の始まりにたたく朱塗りの門で、建立時期は建築様式及び弁柄漆を塗り合わせる方法などから、江戸時代中期であると推定される。仁王門の構造は八脚門で、屋根は2つの傾斜面が重なり合う切妻造であり、門中の左右には仁王像が安置されている。『新編武蔵風土記稿』(19世紀初頭)によると、文殊寺の伽藍(寺院境内の配置)は、本堂や山門、仁王門などの約10棟の建物によって構成されていたが、度重なる火災等によりその大半が失われ、当時の面影を残す建造物は仁王門だけとなっている。仁王門の屋根下にある破風板には、「無懸魚」と呼ばれる鰻の形を逆にしたような魚の飾りが付けられ、水と関わり深い魚を屋根に懸けることにより、火災を予防するというものである。

1957(昭和32)年10月18日指定



8 しばたけしよん 柴田家書院 熊谷市上新田90-1

熊谷市指定文化財

柴田家書院は、江戸時代中期に建築され、書院造の特色が活かされている。本書院の主室は、10畳の上段の間であり、床・棚・建院床を設け、左上手に4畳の入側、右手に8畳の次の間、前面6尺を畳廊下の入側とし、周囲の廻り廊下始めは襦藩であったものを現在のようになら改築したと考えられる。室内の特色は、豪華な彫刻が至る所に施され、江戸中期の社寺建築などの影響も推定される。

1957(昭和32)年10月18日指定



9 しきやくもん 四脚門 熊谷市妻沼1511

熊谷市指定文化財

妻沼聖天山にある四脚門は、室町時代の公家などの正門として多く建てられた様式と同類系であり、江戸初期に建立されたと推定される。高さ5.45m、柱間3.5m、前後脚間2.9m、丸柱の上部に知巻の施工があり、木鼻及び側面破風の懸魚など室町時代の建築以降の影響が見られる。屋根は元来茅葺であったが、江戸時代末期に化粧垂木を残して大部分の修理が加えられている。中門、甚五郎門とも称されている。

1962(昭和37)年8月30日指定



ねぎしけながやもん
10 根岸家長屋門 熊谷市青山152

根岸家は、江戸時代、当地域の名主を務める豪農であり、その面影を残す根岸家長屋門の建設された時期は寛政年間(1789~1801年)の頃と伝えられている。根岸家長屋門の規模は、東西の幅13間、南北の奥行3間、屋根棟高10mを誇り、正面左側は剣術道場の「振武所」として使われ、右側は当時の番頭たちの帳場に使用された部屋が設けられていた。敷地の中には主屋の他に、土蔵5棟、酒蔵1棟があり、更に庭には私塾の「三餘堂」が置かれていた。

なお、根岸家長屋門は、2010(平成22)年度に屋根瓦の葺き替えを中心とした修復工事を実施し、建設当初の面影を復元した。また、かつて振武所として使われていた場所に「友山・武香ミュージアム」を開設し、根岸家の歴史を紹介するパネルや荒川の洪水に備えて保管されていた木製舟などを展示している。

1979(昭和54)年5月14日指定



熊谷市指定文化財

かぶとやまじんじやほんでん
11 冑山神社本殿 熊谷市青山1

冑山神社本殿は冑山地区にある甲山古墳(県指定文化財)の墳頂部に祀られている社殿である。冑山神社の社記によると、1608(慶長13)年の春に村人が剣や鏡、土偶などを発掘したところ、その後もまもなく村中に病が流行したこと、から、再び埋め戻し、祟りを鎮めるために八幡社を置いたことが神社の創建であるといわれている。

現在の本殿は、彫刻裏側に残る記述から、1752(宝暦2)年の建立であると推定される。建造物の構造は本殿正面の2本の柱で流線型の屋根を支える一間社流造で、規模は桁行・梁行3尺、棟高13尺、全体に彫刻が施され精緻な破風を形作っている。彩色の大半は失われているが、彫刻に注がれた高度な技法を目にすることができる。本殿彫刻の製作は、妻沼聖天山本殿の国宝「歓喜院聖天堂」の彫刻を担った彫師集団によるものと考えられている。彫刻の特色として、正面の破風に置かれた彫刻は、聖天堂の奥殿西面に飾られた「司馬温安瓶割図」を彷彿とさせ、側面を中心に各所に配された樹木や枝葉の彫刻は、透かし彫りの技法が用いられるなど、聖天堂において数多く表現された植物彫刻との類似性が窺える。

1979(昭和54)年5月14日指定



熊谷市指定文化財

かみのむらじんじやとりい
12 上之村神社鳥居 熊谷市上之16

上之村神社鳥居は上之村神社本殿正面の本造の両部鳥居である。1995(平成7)年の解体修理の際に、柱のほぞから、願主と大工の名前とともに、1664(寛文4年)に建てられたことを示す墨書が発見されている。笠木や控柱の上に板屋根を設けるなど耐久性にも十分考えられた市内最古の本造鳥居として貴重なものである。

1997(平成9)年11月3日指定



熊谷市指定文化財

さかたいいんきゅうしんりょうじょ
13 坂田医院旧診療所 熊谷市妻沼1420

坂田医院旧診療所は、故・坂田康太郎氏が産科医院として1931(昭和6)年に建造した。構造は鉄筋コンクリートによる平屋建て、床面積は216.72㎡で、玄関ポーチを付け、正面側をスクラッチタイル貼とする洋風近代建築である。

基本的にはこれまでに改造もなく建設当初の状態を残しており、昭和初期の地方近代建築の貴重な遺構であると評価され国登録有形文化財となった。タイル貼の手術室や特殊な照明装置が残るレントゲン室など、各部屋の機能的な特徴も見られ、病院建築の保存好例遺構としても捉えられる。1970年代後半まで診療所として使用されていたが、その後、旧妻沼町(現・熊谷市)が購入し、現在に至っている。

2004(平成16)年8月17日登録



国登録有形文化財

にほんせいこうかいまがやせい きょうかいれいはいどう もん
14 日本聖公会熊谷聖パウロ教会礼拝堂・門 熊谷市宮町1-139

日本聖公会熊谷聖パウロ教会は、1882(明治15)年、東京でイギリス国教会の教えに共感を得た熊谷在住の人々の運動が発祥となっている。1885(明治18)年には、この運動に応じて、日本人最初の聖公会聖職者である田井正一氏の説教会が開かれ、その翌年には金井登氏が当地へ派遣され「熊谷教会」を創設した。

1915(大正4)年には、現在の地に新たな礼拝堂を造る計画が提案され、翌年に米国人設計家ウィリアム・ウィルソンによって設計が行われた。そして、1919(大正8)年、着工から4年の歳月を経て煉瓦造りの教会が完成した。その綿密な設計と併せて、深谷で焼成された上質な煉瓦を使用していることから、関東大震災(1923年)や西埼玉地震(1931年)にも耐え抜き、また太平洋戦争の終戦直前における熊谷空襲(1945年)による火災被害からも免れた。

建物は鐘楼を持つ平屋建ての構造であり、建築面積141㎡。鐘楼の1階部分が入口ポーチとなり、礼拝堂にはベストリー(礼拝準備室)が付設されている。創建時の屋根は洋瓦であったが、戦後に日本瓦に葺き替えられた。礼拝堂入口には煉瓦造りの門が造られ、礼拝堂の入口ポーチと向き合っている。

2005(平成17)年12月5日登録



国登録有形文化財

めぬましようでんざん けんさうぶつぐん
15 妻沼聖天山の建造物群 熊谷市妻沼1511

国登録有形文化財

2017(平成29)年、妻沼聖天山に所在する「歓喜院鐘楼、閻伽井堂、三宝荒神社、五社大明神、天満社、仁王門、水屋、平和の塔」の9件が国の有形文化財(建造物)に登録された。これらの建造物は国宝「歓喜院聖天堂」や国重要文化財「貴惣門」を手掛けた大工棟梁や彫師が関わった物件があるほか、地域の信仰や風土の歴史を明らかにするものとして評価された。

2017(平成29)年5月2日登録

— 建造物の概要 —



こもりどう
鐘楼

鐘楼は聖天堂の北東に位置する本造2階建、寄棟造枘瓦葺の建物で、建築面積は185㎡である。1879(明治12)年に建立され、1950年代後半に増築された形跡が残る。南東には唐破風造銅板葺の玄関を設けている。1階、2階ともに8畳6室を2列に並べ、四周に廊下を廻らしている。2階客殿は、透彫の欄間などの装飾が見られ、1885(明治18)年と翌年に昭憲皇后が休息所として行啓された。



しょうろう
鐘楼

鐘楼は聖天堂の東に位置し、本造2階建、入母屋造枘瓦葺の建物で、1761(宝暦11)年に建立された。建築面積は35㎡である。石造とコンクリート造の二重の基壇上に建てられている。基壇は大正期にかさ上げされたものを、1951(昭和26)年に再整備し、建ちの高い特異な外観を見せている。



あかいどう
閻伽井堂

閻伽井堂は聖天堂の南東に位置する本造平屋建、入母屋造銅板葺の建物で、江戸時代後期の建立と推定されている。建築面積は15㎡である。中央に井戸を据えた土間と水天宮を祀る一室から構成されている。軒廻りに精緻な彫刻を施しており、小規模ながら上質の設えが感じられる。大工棟梁は、貴惣門を建てた林正道、彫刻は三代目石原常八の息子、高澤介之助と伝えられている。



さんほうこうしんしゃ
三宝荒神社

三宝荒神社は聖天堂の背面側に位置する一間社流造、素木造、銅板葺の小社で、1787(天明7)年に建立された。建築面積は3.9㎡である。大工棟梁は国宝の聖天堂拝殿を建てた林兵庫正信であり、軒廻りを彫刻で賑やかに飾るなど、彫師との協働による高い大工技術を見せている。



ごしやだいみょうじん
五社大明神

五社大明神は1783(天明3)年に建立され、聖天堂の背面、三宝荒神社の南側に位置する本造平屋建、切妻造銅板葺の社殿で、建築面積は15㎡である。南から神明宮、稲荷大明神、諏訪大明神、灌頂神、井殿大明神の五神を祀っている。軸部は弁柄塗で、軒廻りの虹梁や妻飾りなど、華やかな装飾を見せている。大工棟梁は林兵庫正信が担った。



てんまんしゃ
天満社

天満社は聖天堂の背面、五社大明神の南側に位置する本造平屋建、一間社流造、素木造、銅板葺の小社で、建築面積は3.8㎡である。軒廻りの彫刻など、三宝荒神社と概ね同じ形態であり、境内の形成過程を知る資料的価値を有している。1785(天明5)年頃の建立と推定され、大工棟梁は林兵庫正信が担った。



にょうもん
仁王門

仁王門は1894(明治27)年に建立され、参道の奥、聖天堂の正面に建つ規模の大きい門である。左右に仁王像が安置されている。本造平屋建、屋根は入母屋造枘瓦葺銅板葺で、中央の虹梁には花鳥の精緻な彫刻を飾っている。建築面積は75㎡である。大工棟梁は林門作正啓と伝えられている。1891(明治24)年に隣接するイチョウが倒木し、建物が再建された。



みずや
水屋

水屋は聖天堂の東側、仁王門の正面南寄りに位置する本造、切妻造枘瓦葺で面積は3.4㎡である。建立は仁王門と同時期の明治時代中期と推定される。中央に石製の水盤を据えている。軒廻りに様々な彫刻を施すなど、規模に比べ豪奢で重厚な印象を与える建物となっている。水盤にも文字が彫られ寄進者や年代を推定する歴史的な資料となり得る。



へいわのとう
平和の塔

平和の塔は聖天堂の北東にある盛土上に建つ総檜造の多宝塔で、銅板葺の屋根が特徴である。1958(昭和33)年に建立され、建築面積は17㎡である。1951(昭和26)年に締結されたサンフランシスコ平和条約を記念し、戦没者の供養と世界恒久平和を祈願して起工されたものである。内部には、十一面観世音菩薩や大日如来、弘法大師などの仏像が安置されている。大工棟梁は妻沼聖天山の建造物群の建立に関わってきた林家の流れを汲む林次助が担った。

じょうこういんほんどう
16 常光院本堂 熊谷市上中条1160

常光院は鎌倉時代に中条家長が建立した寺である。江戸時代になると、徳川家康や忍城主の松平忠吉などから庇護を受け、当時の寺格としては上野寛永寺に次ぐ関東第2位であった。常光院本堂は、1692(元禄5)年頃に再建されたもので、木造平屋書院造の茅葺であり、内部の内陣・外陣には畳が敷かれている。内部には創建期に使用された部材が再利用された形跡もあり、それぞれの時代の建築的技術が融合されていることが分かる。「桐戸の絵」などの文化財も収蔵されている。
2018(平成30)年3月30日指定



熊谷市指定文化財

きゅういしがきやうへいてい
18 旧石坂養平邸 熊谷市中奈良2055

旧石坂養平邸は、文芸評論家や政治家として活躍し、実業界や文化芸術への貢献でも知られる故・石坂養平氏の邸宅である。邸宅は大正時代から約10年を要し、1930(昭和5)年頃に木造2階建ての洋館として完成し、その後方には重厚な和館が建築された。外観から、1階部における石組み風に見せる壁面の構成や、2階部における黄色系の土質塗りによる壁面加工を目にすることができ、赤褐色の屋根を設け、建物の正面中央部にはロココ様式の鏡面を彷彿とさせるレリーフが飾られている。



あかぎひさいずじんじやほんでん
17 赤城久伊豆神社本殿 熊谷市石原1007

赤城久伊豆神社本殿は、二間社流造で、確認された棟札に記されている銘から建立年は1750(寛延3)年であると推定される。屋根は銅板瓦葺であり、旧来のこけら葺きもその下に残る。社殿彫刻は全体的に簡素であるが、前面左右の虹梁と呼ばれている部位の組み込み方は技術的な高さを示している。虹梁周辺の彫刻は、深く立体的に彫り上げる籠彫りと呼ばれる技法が使われている。左右の唐破風側面は弁柄漆が塗られており、現在もわずかに色が残存している。棟札には、旧・三ヶ尻村の秋山藤八正勝が棟梁として建立を担ったことが示されており、歓喜院聖天堂の彫刻にて多くの力を発揮した石原吟八とその弟子の名も見える。
2018(平成30)年3月30日指定



熊谷市指定文化財

かたくら きねんかん
19 片倉シルク記念館 熊谷市本石2-135

片倉シルク記念館は、片倉工業株式会社最後の製糸工場であった熊谷工場の繭倉庫など2棟を利用して開設された記念館である。2007(平成19)年には経済産業省の「近代化産業遺産」に認定された。館内には同社の製糸業121年に及ぶ歴史を保存継承することを目的として、熊谷工場の操業当時に使われていた製糸機械が展示され、繭から生糸になるまでの過程が解説紹介されている。



ながしまきねんかん
20 長島記念館 熊谷市小八林1022

長島記念館は、埼玉県経済界の発展に貢献した故・長島恭助氏の生家であり、記念館として整備された。石積み蔵と白壁の長屋門が敷地の前面に位置し、中央には江戸時代に建造された母屋が残されている。正門右側に位置する2つの蔵は1920(大正9)年に建造され、その外面は太谷石が用いられている。現在は展示室となり、長島氏が収集した日本美術史を代表する画家達の作品や歴史資料などが展示されている。



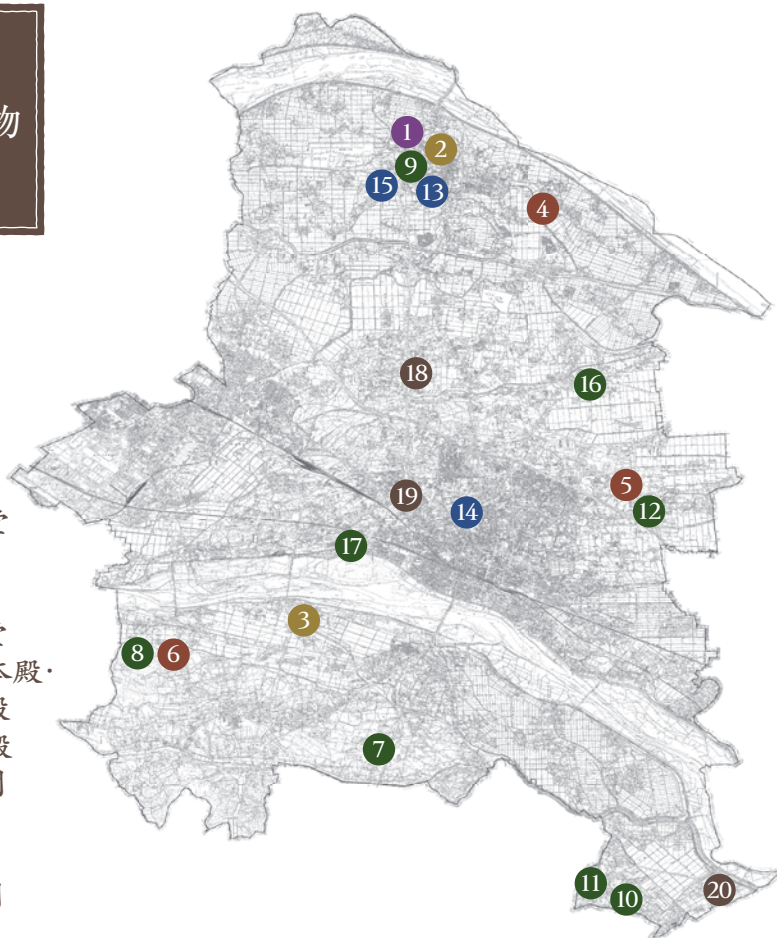
文化財愛護
シンボルマーク



「文化財愛護シンボルマーク」は、文化財愛護運動を全国的に展開するための旗じるしとして1966(昭和41)年5月に定められた。このシンボルマークは、広げた両方の手のひらのパターンによって日本建築の重要な要素である「斗(と)きょう(組みもの)」のイメージを表し、これを3つ重ねることにより、文化財という国民共有の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものである。「斗(と)きょう(組みもの)」は国宝「歓喜院聖天堂」をはじめ熊谷地域の社寺建築や住宅建築の部位の1つとして見ることができる。

熊谷市
歴史的建造物
マップ

- ① 歓喜院聖天堂
- ② 貴惣門
- ③ 平山家住宅
- ④ 龍泉寺観音堂
- ⑤ 上之村神社本殿・雷電神社本殿
- ⑥ 諏訪神社本殿
- ⑦ 文珠寺仁王門
- ⑧ 柴田家書院
- ⑨ 四脚門
- ⑩ 根岸家長屋門



- ⑪ 冑山神社本殿
- ⑫ 上之村神社鳥居
- ⑬ 坂田医院旧診療所
- ⑭ 日本聖公会 熊谷聖パウロ教会礼拝堂・門
- ⑮ 妻沼聖天山の建造物群
- ⑯ 常光院本堂
- ⑰ 赤城久伊豆神社本殿
- ⑱ 旧石坂養平邸
- ⑲ 片倉シルク記念館
- ⑳ 長島記念館

- … 国宝(国重要文化財)
- … 国重要文化財
- … 埼玉県指定文化財
- … 熊谷市指定文化財
- … 国登録有形文化財
- … その他

主な参考文献・資料

・熊谷市教育委員会「熊谷市誕生10周年記念事業：熊谷市文化財ガイドブック」熊谷市立江南文化財センター／編2016年・熊谷市教育委員会「妻沼聖天山建造物群・市内建造物調査報告」2016年・熊谷市教育委員会「熊谷市史別編2妻沼聖天山の建築」2016年・ものつくり大学横山研究室「旧成田領に残る歴史遺産」埼玉新聞社2012年・埼玉県教育委員会「埼玉の近世社寺建築：埼玉県近世社寺建築緊急調査報告書」1984年・埼玉県教育委員会「埼玉県の近代和風建築：埼玉県近代和風建築総合調査報告書」2017年

発行：平成30年3月31日(2018/03/31)

熊谷市立江南文化財センター(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係)
〒360-0107埼玉県熊谷市千代329番地
電話：048-536-5062/FAX：048-536-4575/メール：c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp
HP：「熊谷デジタルミュージアム」http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm
表紙：熊谷デザイン - 菊、桜、麻葉、瓢箪、木賊、鶴、松